

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270800271		
法人名	医療法人 社団 壮志会		
事業所名	グループホーム らくらく		
所在地	〒859 - 4752 長崎県松浦市御厨町里免397		
自己評価作成日	平成21年11月30日	評価結果市町村受理日	平成22年3月9日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内が清潔で家庭的な雰囲気 母体が病院なので医療との連携が取れている 週3回の入浴
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「らくらく」は、入居者も職員も「ゆったり 楽しく 自由に ありのままに」、正しく理念を実践されている。入居者と職員が気軽に世間話を楽しみ、時には冗談を言い合う家族の団欒が感じられるホームである。リビングには、1日が24時間とは限らない利用者のベッドが設置され、利用者と職員が見守る中、煮炊きの匂いや生活音など五感への刺激を受けながら、「何時目覚めても誰かが傍にいる」環境を感じながら、穏やかな時間を過ごされている。目が覚められると職員が穏やかな口調でゆっくり、少しずつ話しかけ覚醒の確認を取りながらベッドサイドの座位、立ち上がり、歩行介助、トイレでの排泄、食卓での自力摂取までスロー介護を行っており、日々のかかわりが廃用症候に歯止めをかけ、質の高いサービスが伺えた

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な雰囲気です。自由にありのままに楽しく共同生活を送る」ように支援している。	基本方針の「ゆったり 楽しく 自由に ありのままに」をキーワードに、入居者と職員が地域の方々と触れ合いながら共同生活を送れるように努められている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的とはいかないが、行事等へ参加し交流を図っている	日常的な買い物や行事参加の支援で、入居者が地域とのつながりを感じながら生活できるように支援されており、訪問した日は市長選挙期間中でもあり、入居者数名と職員が選挙ポスター掲示場所まで人物確認に出向かされていた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	聞かれると相談にのったりホームの見学や講演会の紹介を行っている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各回に現状報告をし、市や地域・家族の方からの協力等もありサービスに活かされている	基本的に、偶数月の第3金曜日の19時から開催で定例化されており、隣接の2ユニットのホームと同日で時間差の開催をされている。これまでの事業所活動や行事に関する報告が中心の会議の展開に不足感を覚えられており、今後は在宅者にも知見を提供でき、地域に貢献できる運営推進会議運営を検討されている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議毎に実情を報告しアドバイスを受けたりしている	市の担当窓口とは、主に運営推進会議を通じた報告とそれに対する助言等による連携をされているが、場合によっては積極的な姿勢で事業所をアピールされ連携につながれることもある。最近の例ではスプリンクラー設置に関する事で出向かされている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないようにしているが、立地条件もあり、玄関の施錠はしている	できるだけ【ダメよ】など行動抑制につながる言葉かけは止めるように、職員と意思の統一を図られている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	あざなどがあれば職員同士で如何して出来たのか話し合っている。感情的になる場面も時にはあるようなので、心にゆとりを持って接していきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	居間は必要とされる方がいないが、今後必要な知識として学んでいきたい		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居されるときに説明を行い、納得・理解を頂いている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが入ったことが無い。意見要望をお聞きするが言われない	入居者や家族の伝えにくい心情を理解した上で、ホームの姿勢としての具体的項目に対する入居者及び家族アンケートの取り組みを検討され、質の向上につなげる意欲を伝えられた。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設の運営については代表者が決定しているが業務等はおおむね職員に任されている	職員に介護職としての意識が高く、個々に研鑽した情報などを掲示したり、会話を通した伝達講習や得意分野の情報提供は業務に反映されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が努力・実績状況の把握をされているかあまりわからないが、定年になった方達も続けて働ける環境を作って下さっている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の数や研修場所で法人外の研修を受ける事は難しいが今年度は実践者研修(佐世保)に行った。毎年行けるようにしたい。個人で行っている人もいる		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援専門員同士のつながりはある。市内に他病院系列のグループホームが出来たので見学会に行った		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期に限らず、いつでも話し合える関係作りを行っている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に尋ねたり、電話をしたりしてサービス・関係づくりに努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にお話し等をお聞きし、必要とされている支援や対応に努めている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いをお願いしたり、ドラマ等を一緒に観たりして感想を言ったり、ストーリーを尋ねたりしながら暮らしを共にする関係を築いている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日の面会等で家族との絆を大切にしながら、共に支えあい良い関係を築いている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と一緒に外出したり、ドライブの時は思い出の場所を回ったりしている	入居期間中に仲良くなられた入居者と退居者が携帯電話で連絡を取り合ったり、退居者がホームを訪問されるなど、ホーム生活での関係継続の支援もされている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昼間はフロアで過ごされる事が多く入居者同士話をしたり、裏庭を歩いたり、他者が職員を呼ぶ時は変わりに呼んであげたりされている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームの行事等にも連絡し、参加されたり、自由に遊びに来てもらっている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話を聞いたりして、できるだけ希望・要望が叶うよう努めている	アセスメントシートも随時取られており、コミュニケーション以外の情報として、「様子観察申し送りノート」に入居者について何でも気づいた時に記入し、職員の観察を通じた情報も大事にされている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族にお聞きし把握に努めている。その後もいろいろ話をしながら知る努力を常に行っている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	長く一緒に生活しており、小さな変化もキャッチ出来ている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間では密な話し合いが出来ているが、家族や他の関係者の意見をもっと反映していきたい	様子観察申し送りノートはサービス提供の実践記録として、更に入居者の状態把握には欠かせない記録である。これをもとにケアプランチェック表や介護日誌が作成され、ひいてはケアプラン作成のバイブルになっている。入居者担当職員がケアプランの案を作り、サービス担当者会議で全職員で話し合い、入居者の現状に即したケアプランの作成に努められている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に記録し、申し送りノートで職員間の情報を共有し見直しに活かしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況の変化に対応し、一人ひとりに合った支援を行っているが、安全・安心・清潔の3本柱にパターン化している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の参加など、家族への呼びかけを行いボランティアをお願いしたりしている。行事参加時、地域の方がトイレに近い場所を提供して下さったりしている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が病院なので普通は母体病院に受診しているが、眼科等適切な医療を受けられるよう支援している	週に1回、訪問看護師による入居者の状態把握がされており、訪問看護師から、かかりつけ医へ情報提供されると共に、適切な医療管理による医療受診の支援がされている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、訪問看護で来られるのでそのときに相談している。急な場合は電話で相談したりして、受診等のアドバイスをもらっている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の洗濯物をしたり届けたり、面会に行き安心して治療できるように支援し、情報交換や相談も密に行っている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してから家族との話し合いになる場合が多い。地域関係者との支援は無い	母体が病院ということもあり、医療と介護の専門性を重視した連携体制で関わり支援されている。また、家族等へはその都度の説明を医師から直接にされており、本人や家族の現状把握による心の安心と対応判断につながっているが、あくまでも本人や家族の希望を踏まえた支援を心がけられている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、マニュアルがあり、母体が病院なのですぐに連絡し受診又は往診をしている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練は年2回行っている。消防団の方に参加してもらった	避難訓練には利用者や家族、近隣の住民も参加されている。また、近隣の方との日常の付き合いも大事にされており、入居者とも顔なじみである。誘導灯として、1階と2階にそれぞれ懐中電灯の設置をされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや、態度でプライドを損ねないようにし、申し送りの時の情報の取り扱いには常に気がけて対応している	入居者と職員の共同生活の現場とはいえ、「サービス業」でもあるので、日常の何気ない言葉かけやコミュニケーションの中に、入居者のプライドや触れて欲しくない話題があることへの配慮の必要性は感じられている。	入居者の尊厳を踏まえて日常の業務の振り返りや職員の意識付けにつながる取り組みに期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に合わせた話し方で説明し、自己決定できるよう提案や導きをしている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度決められているが、起床時間を遅らせ延食したり、昼寝をしたり、自由に生活されている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気にされる方には相談にのっている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞き、メニューに取り入れれたりしている。一緒に出来る方にはお手伝いをお願いしている	入居者の長年の習慣を食事形態やメニューに取り入れられ、本人が摂取しやすい環境を提供されている。時間がかかっても自力摂取の支援をされており、職員はさりげない見守りと誘導で和やかな食卓を入居者と一緒を楽しまれている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った食事量・水分量を知り対応している。朝食にバナナと牛乳の方もいる		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所で出来ない方は、食卓に職員が歯磨きセットを持ってきて磨いてもらったり、磨けない方は職員が磨いたりしている。週に1度ポリデント・歯ブラシコップの洗浄をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し声かけ誘導しているが、リズムが難しく、大きい尿取りを使用しそれに頼り過ぎているところがある。	入居者の生活パターンが1日24時間でない人があり、不規則な生活構成のため排泄パターンの把握ができない入居者に対しては、様子観察を通して声かけし、覚醒が感じられれば、様子を窺いながら声かけ誘導し反応の確認を繰り返しながら、時間をかけてでもトイレでの排泄を支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	心臓疾患の方が多く、運動が難しく便秘の方がいる。下剤を服用しているが難しく座薬も使っている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴が決まっており、一人づつゆっくり入られているが、入りたくないときは無理強いしない。便失禁等の時はその都度入浴されたりしている	日曜日以外は毎日沸かされている。入浴拒否の方には「着替えだけでもしょうか」の声かけで脱衣所まで誘導できれば、後は自然な流れで入浴につなげることができる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠いときはベッドで眠られたりソファで横になったりされている。体調に合わせて起床を遅らせたりしている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書で理解し、症状の変化の確認に努めている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花札ゲームをしたり、毎月2回習字をしている。陶芸も楽しんでいる		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の外出は難しいが、希望があれば買物に行ったり、花見やドライブ等に家族への呼びかけをしている	外出可能な入居者には、生活の一部として買い物や行事見学など希望に応じた支援がされているが、希望がない人などへの外出支援の不足を感じられており、利用者のレベルに応じた外出支援につながる取り組みを検討し、実践につなげたい意向を積極的に述べられた。	入居者の出来ることや可能なことに着目して検討されることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	3人の方が小銭を所持されており希望により買物に出かけられる		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もおられる。電話の希望があればかけている。習字のときに年賀状を作り送っている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルに四季の草花を飾り季節を感じてもらっている。庭には野菜を植えている。居間等には季節の飾り・置物をしている	リビングは入居者にとって、集いや独り居の場所になっており、一人の入居者が洗濯物をたたみ始めればそこに人が集まり、仲良く話しながらたたむ人やその様子をソファに座って眺める人など、入居者一人ひとりが自分の意思で余暇の時間を寛がれている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで横になられたり、バルコニーで本や新聞を読んだり話をされたりしている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	何人かは好みの物を持ってきて使われているが、家族の写真や習字など飾られている	見せていただいた居室からは、入居者のこだわりや趣味、身体状況など生活の一部を窺い知ることができ、ベッド周りには本人の安心につながるものや必需品が備えられており、寛ぎのスペースになっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力に合わせ出来ないところを支援している		